

## 放課後等デイサービス nico

公表

### 放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

公表日		R7年 3月 20日		回収数		5
	放 デイ / 児 発	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	共通	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		学習と活動スペースが分かれている。	クールダウンの為個別ルームがあると良い。
	共通	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		国の定める基準人員の他に加配人員、専門職員を配置している。	職員配置数だけでなく、専門性の向上を目指す。
	共通	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	建物の構造上玄関からフロアまでは階段となっているが、手すりを設置し、階段上部に扉を設置し安全面に配慮している。	日々安全面に配慮し環境整備に努める。
	共通	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・掃除を入念に行っている。 ・活動によって外部の施設を使用し対応している。	・冬は床が冷えるため早めに暖房設備を使用し保温しているため今後課題として捉えていく。
	共通	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・個別支援時は相談室を活用している。 ・状況に応じて部屋を使い分けられるような環境となっている。	事務室に入室しやすい構造のため職員の戸締りの意識は必要である。
業務改善	共通	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		職員一人一人が評価シートを年度はじめに作成し年度終わりに自身の評価を行っている。	年度途中に見直しの機会を設けていく。
	共通	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者会を年数回行い、保護者の意見を聞く場を設けている。不参加の家庭にはアンケートの依頼をしている。	保護者会の参加数を増やす取り組みをしていく。
	共通	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		振り返り会議、ケース会議を設けている。その中で意見交換を行えるようにしている。	年齢、経験問わず意見交換ができる環境を持続していく
	共通	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	事業所内だけでなく日々の業務、日誌、報告等は法人内の各事業所も確認できるような対応をとっている。	必要に応じて外部の方の意見を伺える機会を設けていく。
	共通	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修への参加。内部研修を定期的に行つており、全職員が偏りの無いよう参加している。	職員が講師となっての内部研修をどの職員も実施できるようにしていく。
適切な支援の提	共通	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成後、県へ報告を行い法人HPに掲載し公表を行っている。	HPへ公表している事の周知の徹底をしていく。
	共通	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		本人、ご家族の意向を踏まえたうえで当事業所で個別支援会議を実施し計画に反映している。今後とも成長に応じた計画の作成をしていく。	保護者のニーズに対し、職員の提案としているが、児童が自分の課題として分かっていない面もある。
	共通	13 個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		本人の発達段階、家族様の意向を踏まえたうえで事業所で支援会議を実施し計画を作成している。	全職員で、支援会議をする機会をより多く作っていきたい。
	共通	14 個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		日々振り返り会議、ケース会議を設けているため支援内容を日々更新している。	日々の振り返りをより綿密に行っていく。
	共通	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		法人独自で作成した業務管理ツールを活用している。また事業所毎のLINEグループを活用し簡易的な共有を随時行っている。	細かな記録をとっていき振り返りができるようにする。
適切な支援の提	共通	16 個別支援計画には、ガイドラインの「児童発達支援/放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		本人、家族様の意向を踏まえたうえで事業所で個別支援会議を実施し計画に反映している。	関係機関からの情報も反映していく。
	共通	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		毎月活動スケジュールを作成し保護者へも案内を行っている。	毎年新たな挑戦のできる活動を立案し実行していく。

供 通	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・毎月活動毎にねらいを持ち考案している。 ・固定化する活動については積み重ねによる成長をねらいとし定着している。	毎月新たな挑戦のできる活動を立案し実行していく。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の発達段階や目標設定により個別活動・集団活動どちらに重きを置くか検討し計画を作成している。	専門的個別支援の時間を多く取っていかない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日振り返りを実施している。 会議以外でも常にその日の支援内容等の確認を行っている。	職員個々のスキルを活かし支援に反映させていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		児童帰宅後毎日振り返りを実施。 当日の課題点や児童・家族の情報共有を行っている。	児童帰宅後、記録や事務作業が多く就業時間が遅くなってしまう。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		法人独自のシステムを使用し、記録は入念なチェックをしている。	スマートフォンなどを活用した効率的な専用アプリなどを開発していかない。
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		保護者、関係機関を招き定期的なモニタリング、面談、担当者会議を行い随時個別支援計画の見直しを行っている。	保護者の負担にならないよう早めの日程調整を心がけたい。
	24	放課後等ディサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を意識した活動を考案している。	地域の関係機関との交流の場を提案していく。
放 テ イ	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		過剰な支援がされていないかを考えながら自己選択ができる環境を意識している。	職員同士の足並みを揃えるため日々の共有を持続していく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		基本的に障害児発達支援管理責任者と管理者が出席をしている。事業所内などの職員が参加しても同じ協議ができる状態となっている。	管理職以外の職員も参加できるような体制を作っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて当事業所からも発信し、会議の場をもうけている。	関係機関との情報共有の場を多く作っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		綿密に確認しており、必要に応じ学校へ連絡をしている。学校からも連絡を随時いただけている。関係性となっている。	日頃から情報共有が行える関係性を保っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		担当者会議を通し、連携をはかっている。	当事業所からも率先し発信をしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等ディサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		担当者会議を通し、連携をはかっている。	当事業所からも率先し発信をしていく。
	31	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	32	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
放 テ イ	33	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパー・バイズや助言等を受ける機会を設けているか。			現在のところは児童発達支援センターとの直接なやりとりは無い状況。	基本的には、相談支援事業所を通しての相談となっている為、今後は機会を検討していく。
	34	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	児童クラブとの交流の機会は無いが高齢者施設との交流は行事活動を行っている。	事業所として幅広い活動を取り入れていきたい。感染症予防に勤めつつ、少しつつ交流の場や活動に参加く。
	35	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		随時参加し情報共有を行っている。	今後も情報共有の場に参加をしていく。
	36	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	37	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		保護者への活動や状態の口頭共有だけでなくLINEを活用し共有理解を図っている。	今後も毎日丁寧に情報共有を行っていく。
	38	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	保護者会を通じて職員よりお子様への支援方法など共有する機会を設けていただいている。	職員個々の専門性スキルの向上を目指し多くの職員が研修が出来る状況を作っていく。
	39	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		事業所内に掲示し法人HPにも掲載を行っている。契約時に丁寧に説明を行っている。	必要に応じ丁寧に説明を行っていく。

保護者への説明等	共通	40	こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		日頃から意見を聴取し、児童保護者の意見を確認している。	どんな事でも相談できる場所となれるよう日頃から会話の機会を設けていく。
	共通	41	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	5		本人の意向や状態を踏まえたうえで、保護者と面談を行い計画を作成している。計画作成後、契約内容を説明し、同意を得ている。	事業所内の全職員が説明できるような体制にしていく。
	共通	42	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		直接相談、電話相談、LINE相談など隨時適正に対応と助言を行っている。	どんな事でも相談できる場所となれるよう日頃から会話の機会を設けていく。
	共通	43	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		定期的に保護者会や親子参加型・兄弟参加型の活動やイベントを計画している。保護者同士の交流の場になることも目的としている。	多くの家庭が参加できるよう考えていく。
	共通	44	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		記録を適切に取り保管している。事業所内だけでなく法人内で共有し適切な対応を協議し迅速に対応している。	適切で迅速な対応ができるよう、日頃から共有を図っていく。
	共通	45	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		定期的な面談時の際に活動写真の共有や法人HPへの掲載、事業所毎のインスタグラムを活用し事業所の活動内容を発信している。	SNSの活用頻度を増やしていく。
	共通	46	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の事業所外の持ち出しの禁止を徹底している。※事業所外での会議時などは除く	事業所内の環境整備（整理整頓）を持続し物の管理を徹底していく。
	共通	47	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		日頃よりコミュニケーションや伝え方の配慮を行っている。	日頃よりコミュニケーションを率先し行っていく。
	共通	48	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	美化活動など、活動を通じ近隣の方と触れ合う機会を設けていると共に関係者、関係機関には、いつでも見学に来てもらえるような環境や状況を作りを発信している。	事業所からの発信を率先し行っていく。
	共通	49	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		契約時に説明を行っている。また、事業所内外出入口に自由に観覧できるよう掲示しており定期的に訓練を活動として実施している。	周知いただけるよう定期的に案内を出していく。
非常時等の対応	共通	50	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		事業所内外出入口に、自由に観覧できるよう掲示しており、定期的に訓練を活動として実施している。	周知いただけるよう定期的に案内を出していく。
	共通	51	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		契約時に必ず確認を行っている。随時児童の状況の共有は保護者と行き把握をしている。	服薬状況や持病については、一覧表にし定期的に更新していく。
	共通	52	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		契約時に必ず確認を行っている。随時児童の状況の共有は保護者と行き把握をしている。	アレルギーについては一覧表にして定期的に更新していく。
	共通	53	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、随時見直しを行っている書面上だけではなく、児童一人一人の特質を見た上で安全管理を行っている。	環境整備から安全管理の中で支援できる環境を作っていく。
	共通	54	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		事業所内外出入口に、自由に観覧できるよう掲示しており、定期的に訓練を活動として実施している。	周知いただけるよう定期的に案内を出していく。
	共通	55	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット、事故報告書を随時作成し事業所内だけではなく法人全体に共有している。	小さなことでも作成し共有することで職員一人一人意識を高めていく。
	共通	56	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止の外部研修、内部研修に毎年参加。毎年、自己診断シートを行っている。	虐待は絶対にあってはならない事であり定期的な研修を行っていく。
	共通	57	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	5		必要に応じて直接説明し、同意を得ている。支援計画にも掲載している。	基本的に実施しないが、必要に応じて丁寧な説明を行う。